

音楽科部会

研究主題 豊かな感性をもち、自ら音楽活動を楽しもうとする生徒の育成

1 主題について

知覚・感受したことを基に思考・判断し音楽表現や鑑賞につなげていく一連の流れを大切に、生徒の音楽の力を伸ばすための授業づくりについて研究をしていくこととした。

2 今年度の取組

月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成
9月12日	授業等交流 授業研究会（成章中学校・指定訪問）
10月26日	第2回総合研究会 テーマ研究（成章中学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成24年9月12日（水）
- ・会 場 成章中学校
- ・題材名 2年 合唱曲の魅力を生かして表現を工夫しよう I
- ・授業者 日景 美智子

① 授業者から

- ・本校は少人数のため合唱活動は困難である。しかし授業者自身も力を付けたいという思いから、あえてこの題材を設定した。
- ・9人ずつの2グループに分けることで、「練り合い」の場を設定した。
- ・題材を貫く共通事項として強弱、転調、テクスチャを取り上げた。これら音楽の諸要素同士の関わりを扱いたいと考えたが、前段階で十分に知覚・感受させることが難しかった。そこで本時では強弱一本に絞ることとした。
- ・「思いや意図が伝わるような表現の工夫をさせる」という授業者の意図からずれてしまうことが予想されたため、演奏を録音することは控えた。そのかわりに、各グループ内に一人ずつ聴き役の生徒を置いた。
- ・本時の自己評価カードから「教え合い」の充実を生徒が実感していることが見て取れた。

② 協 議

- ・付箋を活用することで「喉元から声が出ない」状態を解消し、活発な言語活動を促すことができていた。質の高い話し合いであった。
- ・知覚・感受したものを手掛かりにした話し合いであればなおよかった。また強弱について考える授業のはずが、音程を気にしてしまうなど本時のねらいからずれてしまう場面も見られた。教師がもっと牽引してもよかったのではないかと。
- ・楽譜で勝負するのではなく、歌詞の内容から強弱の根拠を考えさせるべきではないかと。
- ・生徒を褒める言葉が、ねらいに対しての適切な評価であればよかった。
- ・本時に取り上げた箇所が強弱を扱うのは難しいのではないかと。むしろ転調、テクスチャであれば扱いやすかった。



【練習風景】

- ・生徒たちの意欲を生かすため、知覚・感受の段階をもう少し充実させるべきだった。
- ③ 指導助言（小林 秀雄 指導主事）
 - ・様々なことを拡大楽譜から読み取れるようになっていた点がよかった。思いや意図を付箋で書き込めるようになっていたのもよい。ただし、楽譜を読もうとする素地がなければ、楽譜のよさは生きてこないことに留意する必要がある。
 - ・練習→話し合い→練習…の繰り返しで学習が進んでいく点がよかった。「導入で歌い、話し合いの時間を長く取って最後にまた歌う」という流れにすべきではない。
 - ・教材曲について、「おそらくここでつまづく」という点を教師が事前に的確に予想し、指導の手立てを工夫することが大切である。
 - ・短いスパンで練習できるような方法を生徒に定着させるとよい。
 - ・教材曲のよさや面白さが、どの音楽を形づくっている要素の働きによるものかを把握し、生徒がそのポイントに気付くための手立てを講じることが大切である。音楽表現の創意工夫は音楽の知覚・感受が基になって生まれる。本題材であれば、強弱・転調が特徴的な楽曲や演奏の聴取をするなどして、全ての生徒に知覚・感受させる活動が不可欠である。

(2) テーマ研究

・期 日 平成24年10月26日（金） ・会 場 成章中学校

① 協議Ⅰ 歌唱教材について

- ・生徒たちが達成感、成就感を味わう授業にするためには、知覚・感受させたいポイントを絞り込み、自分が今日できたことを明確にすることが大切ではないか。
- ・1つの楽曲の前半・後半、あるいは2つ以上の楽曲の比較聴取というの、要素を知覚・感受させるに当たって有効な手段である。

② 協議Ⅱ 鑑賞教材について

- ・学習課題の設定次第で知覚・感受する要素に対する興味・関心も変わってくる。もっと学習課題にこだわりをもつべき。
- ・比較的長い楽曲を教材とする際には、知覚・感受させる段階で全曲を扱う必要はない。全ての生徒に要素を知覚・感受させるためには、特徴的な部分の絞り込みが必要である。

③ 指導助言（小林 秀雄 指導主事）

- ・「感じ取ったこと」が大切にされていない授業が散見される。そのような授業では手立てが不十分なことが多い。知覚と感受を一体的に扱うことが大切である。
- ・どの領域、どの活動においても、知覚・感受が基となる。知覚・感受させる手立てのバリエーションをたくさん作ってほしい。また、今後も本部会の会員同士で互いに情報交換して紹介し合い、共有してほしい。
- ・学習活動の工夫に加え、絞ったポイントを知覚・感受しやすいような音源を用意・工夫することが大切である。

4 成果と課題

(1) 成 果

- ・音楽的なよさや面白さを全ての生徒に知覚・感受させるための手立てについて、広く情報を交換することができた。

(2) 課 題

- ・「感じ取ったこと」を大切にしている授業づくり、また手立ての創意工夫が今後の課題である。